様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 4 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18560622
研究課題名（和文）　中・南部トスカーナにおける歴史的小都市と地域の形成に関する研究

研究課題名（英文）　Research on the small historical cities and the formative process of the territories in the middle and southern parts of Tuscany.

研究代表者 野口　昌夫（NOGUCHI MASAO）
東京芸術大学・美術学部・教授
研究者番号：90218305

研究成果の概要（和文）：
中・南部トスカーナの 10 地域を特定し、56 小都市を固有の地域を形成させる核として捉え、各都市と地域の特性を、特に中世後期からルネサンス期に至る史的形成過程の中で明らかにした。現地調査と史料・文献の精査を通して、その地形、経済、政治、宗教の要因を具体的に把握すると共に、小都市は単一の都市として独自の形成をするだけでなく、隣接する同一地域の小都市との関係性の中で成立し発展していくことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
The 10 territories including 56 small historical cities in the middle and southern parts of Tuscany are selected according to the determinants of formative process. Then each territory composed of small cities is analyzed to find the specific characters mainly from late medieval time to Renaissance. Extensive recording and intensive survey are executed considering geography, economy, politics and religion in those periods. It is clarified that a small city is not only formed independently but also is developed in the relation with other neighboring small cities of the same territory.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	1,000,000	0	1,000,000
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	3,300,000	690,000	3,990,000

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠
キーワード：都市史、イタリア都市形成史

１．研究開始当初の背景
(1)イタリアでは大都市の研究の蓄積に比べ、量的に都市総体の主要部分を占め、各地域を形成させている小都市の詳細研究は、大きく立ち遅れている。
(2)都市修復計画などの行政による偶発性に左右されることなく、学術的視座からトスカーナの歴史的小都市の特質と地域形成過程を解明していく必要がある。

２．研究の目的
(1)中・南部トスカーナの歴史的小都市と地域を対象に、地形、経済、政治、宗教の要因から地域特定をした上で、中世後期からルネサンス期にかけての形成過程を明らかにする。
(2)各地域を構成する複数の小都市の関係性を分析した上で、各小都市の形成過程、都市形態、空間構成を地域との関係の中で明らかにする。

３．研究の方法
(1)最新の資料・文献は、フィレンツェ大学建築学部都市地域研究学科図書館にて複写で収集し、図面・航空写真はマイクロフィルムで撮影する。
(2)史料はフィレンツェ国立文書館にて、特に都市建設に関わる文書、議事録、都市・地域の古図、絵図、19 世紀初頭の課税用不動産台帳（カタスト)・地籍図を入手する。
(3)調査地では、各小都市の市役所で個別に図面、資料、現行の地籍図を収集した上で、多様な高さと方向からの写真撮影と必要な部分の実測を行う。また、城砦と市壁・市門の残存状況、広場・街路による外部空間の構成、街区をつくる住居の集合形式を調査し、都市図面上に記録する。

４．研究成果
(1)トスカーナ全体の中で、明確な特徴をもつ地域を特定する上で、特に重要な要因になった地形、経済、政治、宗教について、具体的には以下の指標が明らかになった。
①地形的要因：本流、支流の谷、尾根、丘陵、台地、盆地、平地がつくり出す構造。
②経済的要因：通商のための陸路・河川交通路の位置と方向、農業・林業などの産業。
③政治的要因：教皇派（グエルフィ）と皇帝派（ギベリーニ)、封建領主や封建貴族の支配体制、大都市国家間の闘争と領域支配。
④宗教的要因：司教勢力と司教区の範囲、教皇との関係、修道院の活動。
(2)以上の指標にもとづく要因を総合的に検討し、中・南部トスカーナの 10 地域を調査研究の対象として選定した。各地域を構成する小都市の合計は 56 である。以下に年度別の調査対象地域と小都市を記す。

平成 18 年度「アルノ川上流域」調査
①ムジェッロ地方
ヴィッキオ、スカルペリア、フィレンツオラ
②アルノ川上流域・ヴァルダルノ地方
フィリーネ・ヴァルダルノ、サン・ジョヴァンニ・ヴァルダルノ、モンテヴァルキ、テッラヌオヴァ・ブラッチョリーニ、カステルフランコ・ディ・ソプラ
③ヴァル・ディ・キアナ地方
カスティリオン・フィオレンティーノ、コルトーナ、モンテ・サン・サヴィーノ、ルチニャーノ、モンテプルチアーノ、サルテアーノ、チェトナ

平成 19 年度「フランチジェナ街道沿い」調査
④キアンティ地方
カステッリーナ・イン・キャンティ、ラッダ・イン・キャンティ、ガイオーレ・イン・キャンティ、カステルヌオヴォ・ベラルデンガ
⑤エルサ川流域・ヴァルデルサ地方
カステルフィオレンティーノ、チェルタルド、サン・ジミニャーノ、コッレ・ディ・ヴァルデルサ、スタッジア、モンテリジョーニ
⑥クレーテ地方・ヴァルドルチャ地方
アシアーノ、ラポラーノ・テルメ、ブオンコンヴ゛ェント、モンタルチーノ、キアンチャーノ・テルメ、サン・キリコ・ドルチャ、ピエンツァ

平成 20 年度「ティレニア海沿い」調査
⑦エルバ島
ポルトフェライオ、ポルトアズッロ、カポリーヴェリ、リオ・ネレルバとリオ・マリーナ、マルチャーナとマルチャーナ・マリーナ、ポッジョ
⑧ヴァル・ディ・コルニア地方・北マレンマ地方
カンピリア・マリッティマ、スヴェレート、サセッタ、モンテヴェルディ・マリッティモ、マッサ・マリッティマ
⑨アルジェンタリオ地方・南マレンマ地方
オルベテッロ、ポルト・エルコレ、ポルト・サント・ステファノ、ジリオ・カステッロ、カパルビオ、マリアーノ・イン・トスカーナ、ペレータ

平成 21 年度「トスカーナ最南端」調査

⑩フィオーラ川最上流域
ピティリアーノ、ソヴァーナ、ソラーノ、サンタ・フィオーラ

(3)以下各年度の研究成果を具体的に述べる。

平成 18 年度は上記①、②のフィレンツェ共和国が 13ー14 世紀に新設した５つの計画都市（テッレ・ヌオヴェ）を中心に、既存の城砦都市をどのような関係性を保持しつつ地域が形成されてきたのかを、特に政治・軍事的側面と農業開発の側面とから明らかにした。上記③では 16 世紀メディチ家のトスカーナ大公国支配後の湿地帯の埋め立てによる地域の農業化の過程を明らかにした。

平成 19 年度は上記④、⑤、⑥について、ローマとフランスを結びトスカーナを縦断するフランチジェナ街道が、街道沿いの小都市と地域の交易による利益で繁栄させ、経済的に発展させていく中世後期の都市形成と地域形成の実態を明らかにした。また上記④では歴史的な葡萄畑の形成と認定への過程についても明らかにした。

平成 20 年度はティレニア海に沿った上記⑧、⑨と、その中継地点としての⑦の海洋小都市が、地中海を舞台とした交易や制海権をめぐって建設され、16 世紀以降城砦化していく過程を追うと共に、後背地の丘上小都市が海港小都市とどのような関係性を保持しながら地域を形成してきたかを、この地域特有の鉱物資源の開発という面を含めて明らかにした。

平成 21 年度はトスカーナ最南端にある上記⑩について、ローマ教皇領に接する地域で教皇や枢機卿の強い影響下にあるという文脈の中で、フィオーラ川流域の奥地に形成された小都市がどのような政治的圧力の中で独自の機能を保持し、城砦化と共に特殊な地形状況の中に固有の地域を形成させてきたかを明らかにした。

(4)以上の成果を国内外の従来の研究の中に位置づけると以下のようになる。
−トスカーナの中で、地形、経済、政治、宗教の観点から固有の地域を特定し、その中に点在する複数の小都市を研究対象として等価に扱う（従来は、歴史的に重要な小都市が地域の形成とは無関係に研究対象として重要視されてきた）。
−対象とする複数の小都市を、その固有の地域を形成させる複数の核として捉える（従来は、小都市を規模、形態、歴史的重要度から研究対象とし、地域から独立した範疇として捉える傾向が強かった）。
−地域を構成する複数の小都市、周辺の農地、街道といった人工環境と、山脈、丘陵、峡谷、河川のような自然環境を含めた地域形成史としての視点をもつ（従来は各々が専分化されて研究されてきた）。

(5)今後の展望
平成 13 年度ー15 年度基盤研究 (C) (2)で「トスカーナにおける歴史的小都市と地域の形成に関する研究」に着手し、北部トスカーナの８地域とそれを構成する 43 小都市を現地において調査した。さらにそれを今回の平成 18 年度ー21 年度基盤研究（C）で「中・南部トスカーナの歴史的小都市と地域の形成に関する研究」に発展させ、10 地域ならびに各地域の 56 小都市を調査した。
今後はこの２つの前研究から得られた知見と体験を踏まえ、同等の視座と方法に基づくが、対象を新たにトスカーナのティレニア海沿岸とする。その理由は以下の通りである。
−海洋小都市と後背地域は一体となって１つの地域を構成し、緊密な関係性を保持しながら歴史的に形成されてきたと予測されること。
−ティレニア海沿いにはまだ多くの未調査の歴史的な海洋小都市と内陸小都市があり、各々は制海権や交易ルートとの関係も重要なファクターとして海域と地域の形成過程に結びついていると考えられること。
−前年度までの数多くの内陸小都市と、次年度以降着手する海洋小都市との形成過程を複眼的に見ていき、地域の形成過程における対比と共生の実態を明らかにする必要があること。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
野口昌夫、自著を語る５６『イタリア都市の諸相−都市は歴史を語る』、地中海学会月報 314 号、2008 年 11 月,p6(査読有)

〔学会発表〕（計１件）
野口昌夫、「フィレンツェ共和国の計画都市−規模と構成、そしてシンボルとイデア−」日本建築学会歴史意匠委員会都市史小委員会シンポジウム：都市史研究の最前線（2009 年 12 月 16 日、日本建築学会建築会館）

〔図書〕（計１件）
野口昌夫、刀水書房、『イタリア都市の諸相−都市は歴史を語る』、2009 年、163 頁

〔その他〕
野口昌夫、自著を語る『イタリア都市の諸相−都市は歴史を語る』、東京新聞、2008 年 2 月 21 日

６．研究組織
(1)研究代表者　野口昌夫（NOGUCHI MASAO）
東京芸術大学・美術学部・教授
研究者番号：90218305

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：